

2026年6月7日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒476番 (KH 姉)

『いかなる恵みぞ』

武蔵野音大サクバット部伴奏付き

聖書⇒マタイによる福音書 11章 28~30節 (MM 姉)

『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒434番

『疲れし人々』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 2章 1~2節 (KT 姉)

『兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 4章 4~5節

『自分には何もやましいところはないが、それでわたしが義とされているわけではありません。わたしを裁くのは主なのです。ですから、主が来られるまでは、先走って何も裁いてはいけません。主は闇の中に隠されている秘密を明るみに出し、人の心の企てをも明らかにされます。そのとき、おのおのは神からおほめにあずかります。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 2章 20節

『生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒281 番 (KH 兄)

『御顔拝し』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23b~28 節 (CN 兄)

『すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すこととなります。だれでも、自分をよく確かめたうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒153 番

『わがためいのちを』

《建徳》

聖書⇒ルカによる福音書 11 章 27 節 (YN 兄)

『イエスがこれらのことを話しておられると、ある女が群衆の中から声高らかに言った。「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。』」

聖書⇒ルカによる福音書 9 章 35 節

『すると、「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」と言う声が雲の中から聞こえた。』

聖書⇒ルカによる福音書 8 章 8b 節

『イエスはこのように話して、「聞く耳のある者は聞きなさい」と大声で言われた。』

聖書⇒出エジプト記 19 章 5 節

『今、もしわたしの声に聞き従い／
わたしの契約を守るならば／
あなたたちはすべての民の間であって／
わたしの宝となる。
世界はすべてわたしのものである。』

聖書⇒出エジプト記 19 章 8 節

『民は皆、一斉に答えて、「わたしたちは、主が語られたことをすべて、行います」と言った。』

聖書⇒ローマの信徒への手 7 章 7~13 節

『では、どういうことになるのか。律法は罪であろうか。決してそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったでしょう。たとえば、律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりを知らなかったでしょう。ところが、罪は掟によって機会を得、あらゆる種類のむさぼりをわたしの内に起こしました。律法がなければ罪は死んでいるのです。わたしは、かつては律法とかかわりなく生きていました。しかし、掟が登場したとき、罪が生き返って、わたしは死にました。そして、命をもたらすはずの掟が、死に導くものであることが分かりました。罪は掟によって機会を得、わたしを欺き、そして、掟によってわたしを殺してしまったのです。こういうわけで、律法は聖なるものであり、掟も聖であり、正しく、そして善いものなのです。それでは、善いものがわたしにとって死をもたらすものとなったのだろうか。決してそうではない。実は、罪がその正体を現すために、善いものを通してわたしに死をもたらしたのです。このようにして、罪は限りなく邪悪なものであることが、掟を通して示されたのでした。』

聖書⇒ルカによる福音 10 章 38~42 節

『一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

』

聖書⇒創世記 1 章 1 節 (KH 兄)

『初めに、神は天地を創造された。』

聖書⇒創世記 1 章 31 節

『神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。
夕べがあり、朝があった。第六の日である。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 21 章 1 節

『わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。
最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。』

聖書⇒創世記 3 章 17 節

『神はアダムに向かって言われた。
「お前は女の声に従い／
取って食べるなど命じた木から食べた。
お前のゆえに、土は呪われるものとなった。
お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 22 章 3 節

『もはや、呪われるものは何一つない。』

聖書⇒創世記 3 章 8~9 節

『その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、
園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15 章 5~6 節 (SK 兄)

『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につなが
っていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。わたしに
つながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられ
て焼かれてしまう。』

礼拝讃美歌⇒395 番 (KH 兄)

『慈しみ深き』

武蔵野音大サックバット部伴奏付き

武蔵野音大サックバット部
演奏

《建徳要旨》